

令和元年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	まちづくり局登戸区画整理事務所	要素事業所管課	まちづくり局登戸区画整理事務所
----------	-----------------	---------	-----------------

1 計画の概要

計画の名称	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区における防災安全を促進する公共空間の整備（防災・安全）	計画の期間	平成28年度～平成31年度
計画の目標	土地区画整理事業により、都市計画道路等の公共施設を中心としたバリアフリー化を含む総合的な基盤整備を行うなど、安全・安心なまちづくりを推進する。		
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤整備率を75%に増加させる。 ・まちづくり勉強会等への参加者の満足度を70%以上得る。 ・駅前広場に結節する幹線道路の整備及びバリアフリー対策を推進し、15%整備する。 		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	・計画期間内の事業進捗状況を踏まえた全体事業費の見直し		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	【道路】 登戸地区(旧通常費) 登戸地区(旧地活分)	2,642,000 1,141,000	674,000 1,674,000	595,068 1,061,918	88.3 63.4	主な完成路線 ・登戸3号線
B (関連社会 資本整備事 業)						
C (効果促進 事業)						
全体事業費(A+B+C)		3,783,000	2,348,000	1,656,986 【財源内訳】 国：830,743 県： 市：826,243	70.6	

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

※本計画の評価指標に用いる現況値は、その他関連する事業に位置付けている「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の活性化」(平成27年度～平成31年度)との関係性を踏まえ、H26としている。

評価指標の名称、内容	都市基盤整備率			
定義及び算定式	土地区画整理事業施行地区内における、計画移転棟数に対する移転建物棟数の占める割合 (%) ⇒ [建物移転実施移転棟数] (棟) / [建物移転棟数総数] 1,358 棟			
その指標を設定した理由	土地区画整理事業による市街地環境改善の効果を、土地区画整理事業による防災性の高い建築物への更新割合により評価するため			
当初現況値 (H26)	中間目標値	最終目標値 (R1)	実績値 (確定・見込)	目標達成状況
・53%	・—	・75%	・75% (見込)	達成 (見込)
目標達成状況に対する所見	登戸土地区画整理事業を進める中、一定のエリアで建物移転を実施する「集団移転手法」を活用した事業推進を図り、幹線道路、区画道路の整備が進捗したことで、防災性が向上し、地域生活拠点として良好な市街地環境が形成された。			
将来の見込み	登戸土地区画整理事業による基盤整備や建物移転が進んでいることから、事業完了に向け、引き続き取り組むことにより、良好な市街地環境が形成される見込みである。			

評価指標の名称、内容	住民との協働によるまちづくりの評価			
定義及び算定式	まちづくり勉強会等への参加者に対する質的なアンケート調査 ⇒ まちづくり勉強会等が「有意義であった」「非常に有意義であった」と回答した人数 (人) / 全回答者数 (人)			
その指標を設定した理由	住民との協働によるまちづくりの過程及び成果を、まちづくり勉強会等への参加者の質的な満足度により定量的に評価するため			
当初現況値 (H26)	中間目標値	最終目標値 (H31)	実績値 (確定・見込)	目標達成状況
・—	・—	・70%	・85% (見込)	達成
目標達成状況に対する所見	集団移転の実施により、目に見える事業進捗が図られたことで、駅周辺や幹線道路沿いの魅力と賑わいの創出に向けた住民が主体となったまちづくり検討会が活発に行われるなど、まちづくりへの関心や参画意識が高まった。			
将来の見込み	事業による宅地の利用増進を図ることと併せ、住民が主体となったまちづくりを誘導し、検討会等の活動を支援することで、良好な街並みの形成される見込みである。			

評価指標の名称、内容	バリアフリー経路の整備率			
定義及び算定式	土地区画整理事業施行地区内において、バリアフリー基本構想でバリアフリー経路に位置付けられている整備予定路線の平成26年度末時点の残整備延長のうち、計画期間内に整備を実施した延長の割合 ⇒ 幹線道路 (※) 整備延長 (m) / 幹線道路 (※) 残整備延長 (m) (※) バリアフリー経路に限る。			
その指標を設定した理由	計画区域内の都市計画道路の一部が、本市バリアフリー基本構想でバリアフリー経路に位置付けられていることから、バリアフリー経路の整備による安全な歩行者導線の確保を評価するため			
当初現況値 (H26)	中間目標値	最終目標値 (R1)	実績値 (確定・見込)	目標達成状況
・—	・—	・15%	・18% (見込)	達成
目標達成状況に対する所見	登戸土地区画整理事業を進める中、一定のエリアで建物移転を実施する「集団移転手法」を活用した事業推進が図ることで、登戸駅周辺のバリアフリー経路が確保された。			
将来の見込み	今後、事業が進捗することで、駅前広場や都市計画道路を中心としたバリアフリー経路の整備が図られる見込みである。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	なし
定義及び算定式	—
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	—
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	—

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<p>市民意見 内容：市ホームページにおいて、事業目的、事業概要、事後結果を掲載し、市民からの意見を募集。 手法：担当課への意見書の郵送、FAX、メールでの提出などによって意見を募集 実施期間：9月1日～9月30日</p>
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<p>意見：0件 意見募集で提出された意見は無かったが、まちづくり活動に係るアンケートの結果、まちづくりへの関心が高まっていることから、計画期間内の取組により、一定の効果があつたものといえる。また、土地 区画整理事業の早期完了を望む意見もあることから、引き続き、事業を推進することが必要といえる。</p>

6 今後の方針等

総合的な所見	<p>○指標の達成度 『都市基盤整備率』『住民との協働によるまちづくりの評価』『バリアフリー経路の整備率』のいずれの項目においても目標値を達成し、効果があつた。 ○計画で設定した以外の指標における事業効果 登戸土地区画整理事業による道路等の整備合わせて、登戸地区周辺の人口が増加していることから、住みやすいまちの形成に繋がっていることが確認された。 ○市民意見 意見募集で提出された意見は無かったが、まちづくり活動に係るアンケートの結果、まちづくりへの関心が高まっていることから、計画期間内の取組により、一定の効果があつたものといえる。また、土地 区画整理事業の早期完了を望む意見もあることから、引き続き、事業を推進することが必要といえる。</p>
今後の方針 次期計画 あり・なし	<p>○登戸区画整理事業については、集団移転の実施により、都市計画道路や駅前広場等、主要公共施設周辺の整備が進んでいることから、令和7年度の事業完了に向け、引続き、生活環境の改善と防災性の向上を図るため、事業を推進する必要があります。 ○区画整理事業を含めた事業効果発現に向け、駅周辺の交通利便性の向上と交通結節点機能を強化するため、暫定整備となっている駅前広場整備を進めていくとともに、地区の骨格となる都市計画道路の整備を進めていく必要があります。</p>